

令和4年度
 劇場・音楽堂等機能強化推進事業
 (地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)
 成果報告書

団 体 名	ひろしまオペラ・音楽推進委員会	
施 設 名	アステールプラザ	
助 成 対 象 活 動 名	公演事業	
内定額(総額)	15,691	(千円)
公演事業	15,691	(千円)
人材養成事業	0	(千円)
普及啓発事業	0	(千円)

(1) 令和4年度実施事業一覧【公演事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	オペラ公演 「ドン・ジョヴァンニ」	令和4年8月27日(土) 令和4年8月28日(日)	【曲目】「ドン・ジョヴァンニ」 芸術監督・演出/岩田達宗、指揮/ 川瀬賢太郎、管弦楽/広島交響楽団	目標値	1,500
		JMS アステールプラザ 大ホール		実績値	1,283

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

2. 自己評価

(1) 妥当性

自己評価
社会的役割等（ミッション）や地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。
<p>広島市は、都市像として「国際平和文化都市」を掲げ、世界の国・人との連帯による世界恒久平和の実現、豊かな文化と人間性を育む都市づくり、文化芸術をはじめとした様々な分野で活発な国際交流や国際協力を推進し、世界に開かれた活力ある都市を目指しており、当劇場も「国際平和文化都市」として文化芸術発信の中心的役割を担うことが使命となっている。このため、当劇場では『文化芸術を創造し、感動と希望をもたらす地域文化の拠点として、人を「つくる」、文化を「つくる」、まちを「つくる」創造劇場から個性と魅力ある都市文化の形成』を目標に掲げ長年にわたり様々な芸術作品の企画・制作・実施に取り組んできた。とりわけ、広島におけるオペラ事業は浅草オペラスターの大津賀八郎主宰の歌劇団の存在やオペラハウスの建立などを嚆矢として大正時代から続くオペラ人気に支えられ、戦後は街の復興の機運醸成に大きな役割を果たしながら長く市民に愛され、テノールの川崎豊やソプラノの砂原美智子や大谷冽子など多くの音楽家を輩出してきた歴史もあり、当館事業の基幹事業として継承・発展し続ける事が地域からも求められている。</p> <p>（事業の組み立て）</p> <p>○地域に根差した事業</p> <p>イタリアの歌劇場で劇場ピアニストを務めていた専門職員が常時当館内に在籍し、歌手の指導にあたった。また、公演には地元の歌手を積極的に起用し一緒に作品創りを行うなど、いつ来ても顔が見える制作現場として地域にも親しみを持ってもらいやすい環境作りに努めた。</p> <p>○国際化に貢献する取組</p> <p>例年、出演者や関係者に外国人がいることに加え、平和記念公園から徒歩圏内にある立地から外国人との自然な交流が生まれやすい環境にある。このため芸術や創造を介した交流を支援した。</p> <p>○コロナ禍における継続した取組</p> <p>関係者が新型コロナウイルスに罹患し、招聘予定のアーティストがキャンセルとなるなど様々な課題が発生したがその都度、安全を確保したうえで実施できるよう協議を重ね適切な対策を施し実施した。観客席については可能な限り密とならないように販売することは収益率を犠牲にすることでもあり苦渋の決断であったが、来場者の安全を第一とした。</p>
助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。
<p>○文化的意義</p> <p>当該事業は広島市が目標とする世界の国・人との連帯による世界恒久平和の実現及び文化芸術を通じた国際交流や国際協力の推進という観点において作品の制作過程及び鑑賞機会の提供などに一定の貢献がある。例えば大邱オペラハウスからの紹介による韓国歌手の招聘は 10 年以上に亘り何度も実績があるほか、類似事業において延 20 名以上の海外アーティストの招聘実績がある。こうした実績がきっかけとなり地元歌手や事務局スタッフとの間に交流も広がっている。更にオペラ公演・研修に出演参加し育成してきた地域の歌手がその活躍の場を全国、国外に広げている。</p> <p>○社会的意義</p> <p>平成 10 年から実施しているひろしまオペラ合唱団は団員数 17 名で構成され参加者は勿論、周囲の方々にも生きがいやクオリティオブライフ、活躍の場作り、文化芸術への理解促進などの貢献がある。</p> <p>○経済的意義</p> <p>公演を鑑賞するため市県外からの来広者（38.2%）や宿泊客（6.3%）に加え、周辺の飲食店への来場者の増につながり、コロナ禍でも実施をした事について地域の方にも歓迎された。※割合は来場者アンケートから算出。</p>

(2) 有効性

自己評価

目標を達成したか。

本事業については以下の目標を設定している。

- ① 『広島で創られるオペラ公演や現代音楽等の公演を広島の「誇り」と思ってもらえること』
- ② 『オペラの創造活動により地域の音楽芸術活動と人材育成に貢献すること』
- ③ 『優れた舞台芸術を広く周知し、多くの市民に伝えること』

助成対象事業においては、以下のとおり参加者に対するアンケートの結果等から概ね目標を達成したと考える。

■公演事業

<オペラ公演>

・ 演出家・指揮者・キャスト・スタッフが一体となって互いに関わり合い、協力して作品を創り上げる取組は人材育成をはじめ、個性と魅力ある都市文化を形成する劇場・音楽堂としての機能を発揮するものであった。

・ 魅力あるオペラのまち広島を目指し、全国レベルの指導者やスタッフにより、市民が誇りに思えるレベルの高い公演を制作し提供することができた。

(公演の満足度：回答者の 83.0%が満足したと回答)

○アンケート結果

アンケートの結果によると 62.2%の方が5回以上当該事業の観覧をされており 83.0%の方が満足したと回答。また、観客の 89.2%が当該オペラ公演事業の継続を希望されており、年に一度のオペラ公演を心待ちにされている声が数多く寄せられた。

一方、初めて来場された方は 13.3%あり「はじめてオペラを見ました。とても楽しかったです。またオペラを見たいです。今度は娘たちにも見せたいです。」(50代福山市)「すばらしい公演で、ありがとうございました。今回をきっかけにオペラに対して興味がわいてきました。」(60才代東広島市)「地元には生演奏でオペラを楽しめるところがあまりないので」(20代山口県)「初めてオペラを生で見ました。迫力があってとても面白かったです。」(20代安芸郡)などの声が寄せられた。根強いリピーターの存在と、初めて鑑賞してファンになる方と両方に有効な事業を実施できた。

■人材育成事業

<合唱団の運営・育成>

・ オペラ公演の専属合唱団では、優れた指導者からの高度なレベルでの指導を受け、オペラ公演や演奏会に出演し、地域に還元する芸術創造活動に貢献することができた。

(団員の満足度①：講師の指導内容 「満足」「やや満足」の割合がアンケート全体の 64.7%)

(団員の満足度②：自身の自主活動への影響 「十分あった」「ややあった」の割合がアンケート全体の 47.1%)

<子どもオペラワークショップ>

・ 子どもオペラワークショップでは、優れた指導者とともに、地元オペラ歌手をサポート役として起用し、次世代を担う子どもたちに貴重な機会を提供することができ、将来の歌手や観客の育成に貢献することができた。

(参加者の満足度①：プログラムの内容 「楽しかった」の割合が全体の 100%)

(参加者の満足度②：「オペラに興味を持った」の割合がアンケート全体の 100%)

(3) 効率性

自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。

■公演事業

○事業期間について

・オペラ公演は、地域に根差した創造活動として、4月のオーディションから8月の公演まで約5か月かけて取り組んだ。この期間、広報やチケット販売を計画に沿って行った他、キャストの個別練習、そして公演1か月前からは演出家と指揮者が広島へ滞在しての充実した稽古等を計画どおり行った結果、文化創造の拠点として地域に根差し、人材育成にも成果を上げ、創造性の高い公演を創出できた。

アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

○事業費について

・オペラ公演に係る費用は全体的に節減となるように努めたが、当初の想定以上の経費としてコロナ対策費（抗原検査キットやマスクの購入）及びキャストの病気による交代などやむを得ない事情の経費が発生した。また新型コロナウイルスの動向が不透明な事もあり集客に向けての広報や感染対策を講じた運営方法などでチケット販売の動きに影響があった。

・優れた指導者を招いたオペラ専属合唱団の育成・運営がキャストをはじめ関係者やスタッフに与えた影響は大きく参加者自身のキャリアやモチベーションアップに貢献があった。また、全国から集まったキャストが仲間同士の交流を行い国際平和文化都市としての広島市の理解を深める事に貢献があった。

・県外から主要スタッフを広島に長期招聘し、地元の歌手や関係者と共に創造する公演は滞在費用などまとまった金額が必要となるが、地域に還元できる価値も多く生み出している。

○総入場者数について

・当初の目標は設定座席数（座席数 1,091 席×0.8×2 公演≒1,746 人→1,500 人：コロナ対策）の8割以上に設定し、1,283 人と目標の85.5%を達成した。多様な観客へのアプローチを目標にしており、車いす専用席を確保したほか、学生については席種に関係なく一律 2000 円で鑑賞出来る設定とするなど、普段オペラに触れることが少ない層にも鑑賞機会が提供出来るよう工夫した。

(4) 創造性

自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

広島市の文化拠点として位置付けられるためには、文化を創造発展させ魅力的な個性を発揮する活動の「場」、そして市民文化の創造と発展の象徴のシンボルとして、市民の誇りとなる文化芸術の「創造活動」のそれぞれが効果的に行われる必要がある。

当劇場の設備は、大・中のホール他に上演形式にとらわれず使用できる多目的スタジオ、そして中四国で唯一のプロオーケストラである広島交響楽団の専用練習場ではあるが、使用されない時には室内楽の演奏会や市民オーケストラや合唱の練習などとしても利用できるオーケストラ等練習場といった上演会場を有するだけでなく、実演芸術の創造活動に欠かせない練習室や音楽室といった練習会場機能を併せ持ち、これらを最大限活用しての創造型事業を柱に取り組んでいる。

事業体系としては「音楽」「演劇」「ダンス」を柱にし、現代音楽やコンテンポラリーダンスなど新しい文化の創造にも挑戦し、広島の文化シンボルとして相応しい事業を展開した。取り組みにおける特徴として《創造》《育成》《提供》《普及》の4点に分類することができる。具体的には《創造》は優れた演出家等のスタッフによる高水準の「プロデュース公演」をオペラ、演劇、バレエ、コンテンポラリーダンスにおいて制作。《育成》は「研修事業」として、オペラ研修、演劇学校、バレエ・ダンスワークショップを開催。《提供》は演劇、ダンス、オペラ、クラシック音楽、伝統芸能等の公演を、共催も含めて多数の鑑賞機会を市民へ提供。《普及》は文化芸術の普及・啓発を行うため、オペラ出前コンサートやオペラコンサートを開催した。

オペラ公演では、令和元年にモーツァルト作曲「魔笛」を制作・公演、「ブッファ」「セリア」に続いて「ジグシュピール」と様々なジャンルを提供した。また、平成30年に上演した「イドメネオ」は第16回三菱UFJ信託音楽賞「奨励賞」を受賞し、地域発信のオペラとして高い評価を受けた実績がある。今回貴助成を受けた公演事業のオペラ「ドン・ジョヴァンニ」では当劇場でオペラ事業を開始してから4半世紀の蓄積の中でモーツァルト作品を計11回上演するなどアンサンブルの力を磨いてきたことが満足度の高い公演の実施に繋がった。平成29年度から3年間かけて取り組んだ「オペラ・ブッファ」（喜劇）、「オペラ・セリア」（神話等が題材）、「ジグシュピール」（紙芝居）というモーツァルトの系譜を紹介したシリーズの次のステップとして演出家の岩田達宗氏を芸術監督に迎えこれまで培ってきたアンサンブルの魅力を高めて市民に提供することを狙った「アンサンブルシアターシリーズ」の初年度作品として位置づけ、再現芸術作品として価値の高い制作を行った。

その他、現代音楽公演は、平成19年度から日本人作曲家として現在最も世界的に活躍している広島市出身の現代音楽作曲家、細川俊夫氏を音楽監督に迎えた小規模の演奏会を年2回程度のペースで開催しており、特別企画という位置づけでの取り組みで継続している。

当劇場がプロデュースする公演は、劇作家協会の新人戯曲賞を受賞した地元の演劇人を戯曲・演出として起用しての創作作品の制作・公演。東京のバレエ団で活躍する指導者を招いての創作作品の制作・公演、他分野との積極的な交流を図っているダンサーを中心にした創作作品の制作・公演がある。いずれの公演も、指導者が広島に滞在し劇場でじっくり制作する手法をとり、文化拠点としての機能を十分発揮した創造性の高い公演を発信し続けている。多様な公演を制作する現場ではジャンル間相互の交流が促進される側面もあり、より創造性の高い作品作りに向けてよい影響をもたらしている。

自己評価

地域の実演芸術等の振興など、地域の文化芸術の発展につながった（と認められる）か。

当劇場での事業の取り組みは、オペラとクラシック・現代音楽においては、マスコミや行政、音楽関係者からなる委員会を組織し、事務局をアステールプラザに置いて運営しており、地域団体のニーズと要求に応じている。本公演の関連事業として、実施した以下の事業（主なもののみ例記）においては地域の方々が文化芸術にふれる機会の提供となり、観客及び地域文化を担う人材の育成につながった。

<地域のオペラを担う人材の育成>

オペラ公演キャスト及びピアニストを対象に歌唱・伴奏研修を無料で実施。（令和4年6～8月）10名

<ひろしまオペラルネッサンス合唱団の運営>

17名の団員が年間4回の公演を実施。指揮や演出から本格的な指導が受けられる事が魅力となっている。また永年に亘る活動の成果として団員同士の結びつきも強く教え合いやモチベーションの向上の工夫が自然発生的に起こりひろしまオペラの推進の原動力となっている。

<オーケストラと遊ぼう 0才からの広響ファミリーコンサート>（令和4年8月9日）

乳幼児期の子どもから鑑賞できるコンサートを開催することで、子どもの豊かな感性に刺激を与え、情緒を育むことを目的として実施。劇場に足を運ぶことが難しい子育て世代と貧困層の家族に等しく文化活動への参加を促し、市民の豊かな生活の実現に貢献するため参加料を無料で実施した。

（来場者の満足度①： 「満足」「やや満足」の割合がアンケート全体の87.5%）

<オペラ出前コンサート>

オペラを身近に感じていただける内容のコンサートを地域の学校、公民館、福祉施設に出向いて開催し、オペラファンの裾野の拡大を図り、オペラの普及・啓発に資することと、出演者には出演や演奏の機会を提供することで、実践の場でお客様と一体となる演奏会の取り組み方や進め方等の経験となり、あわせて歌唱技術の向上等を図ることを目的としたが、コロナ禍の影響により依頼のあった会場側の都合等で令和4年度は実施を見送る事となった。コロナ前は例年実施しており広島で制作しているオペラを知って頂く貴重な機会となっている。

<地元他団体との共催事業主なもの>

在広オペラ団体の育成を図り、多様なオペラ公演を定期的に市民に提供することで、オペラの普及を目指すため、オペラ団体の公演を共催することで支援した。

○広島オペラアンサンブル第46回公演「魔笛」（令和4年11月26日、令和4年11月27日）

地元の歌手陣による歌唱も素晴らしくドイツ語である歌唱・台詞を全て日本語で上演するなどオペラ初心者にも分かり易い内容で実施することができた。入場者数は前年の572名から688名と増加し人気を高めている。

○広島シティーオペラ第13回公演「タンホイザー」（令和5年2月25日、令和5年2月26日）

「タンホイザー」は出演人数やオーケストラの編成の規模が非常に大きいため、上演のハードルが高い作品で今回、中四国地域初演として話題を呼んだ公演であった。運営全体についても、稽古中から仕込み、本番まで非常にスムーズに運営した。また、地元のエリザベト音楽大学と連携し多数の学生が出演者やスタッフとして参加した事により次代を担う世代にとっても良い経験になった。

(5) 持続性

自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展する（と認められる）か。

当劇場では施設の安定的な運営に加え、多岐に亘る自主事業（オペラ、クラシック・現代音楽、演劇、バレエ、文化情報の収集等）を実施している。豊富な事業を展開する事が多様な観客を産み出し、自主事業を制作する過程において参加者の芸術理解や次世代の担い手の育成に繋がり、彼らの活躍が新たな顧客を創造している。こういったサイクルが永年に亘り続いてきたことが当館の強味であり地域からの支持を集める理由に繋がっている。

<人材面>

劇場運営の経験豊富な専門知識のある職員を適材適所に必要人数配置し、サービスの維持・向上を図り、12時間の開館時間内をローテーション体制で運営している。これを継続して安定的に遂行するため、職員の能力向上はもとより、職員一人ひとりの勤務意欲と能力を一層向上させるなど、人的資源を最大限活用するため「企画力の向上」「組織マネジメントの向上」、「情報発信能力の向上」、「舞台技術能力の向上」、「アートマネジメント能力の向上」といった視点を持って運営に当たることのできる人材の育成を目標に掲げており、各々がスキルアップに励んでいる。その効果をより高めるために各人で自己目標を設定し自身の能力開発・向上を図り、管理者が職員の目標の達成状況を適切に評価し、適材適所の人事管理を行うことで、組織全体の業務能力とモチベーションの向上を図るよう取り組んでいる。

<経営戦略>

事業実施の際に参加者や関係者からアンケートを取っており、来場者のニーズや有効な広報手段、主催者側の制作意図やねらいが伝わっているかの確認と分析を行ったうえで次年度の事業計画を策定している。例えば過去の事業実施の豊富なデータ蓄積を元に実施時間によって来場者数に変化が生じているなどの動向を読み取り計画を立て、相関分析により参加者の傾向を読み取ったうえで事業計画するなどマーケティングもしている。課題として、当館主催事業の参加者はリピーターの存在が大きくそちらのニーズを汲み取ったものになりがちであることから今後は、新規市場として若い世代を意識した新しい取り組みについても準備を進めている。

<PDCA>

職員間の情報交換や課題意識の共有を日常的におこなう事で計画実行のスケジュール管理や事業のチェック機能強化に努めている。職員間のみならず、関係者や来場者ともコミュニケーションを積極的に取るような意識付けがあるため隠れたニーズや問題点の発見が早く即応できるように努めている。また、計画策定には複数人の意見調整や協議があるため想定すべき事の洗い出しも迅速に行われているのが強みである。

<ネットワーク>

オペラや演劇などの事業を通じて、地域の文化団体のみならず、他都市のオペラ団体や劇場との幅広いネットワークを構築している。今後の主な計画は、広島市の姉妹都市である韓国大邱広域市との芸術交流の充実である。

また、近隣施設と事業連携や運営協力など良好な相互関係を築くために「平和記念公園周辺地域施設連携協議会」を設置するなど地域の一員として社会的責任を担うなど適正な運営を行っている。